

みんなで話そう 町の未来

まちづくり町民ワークショップ

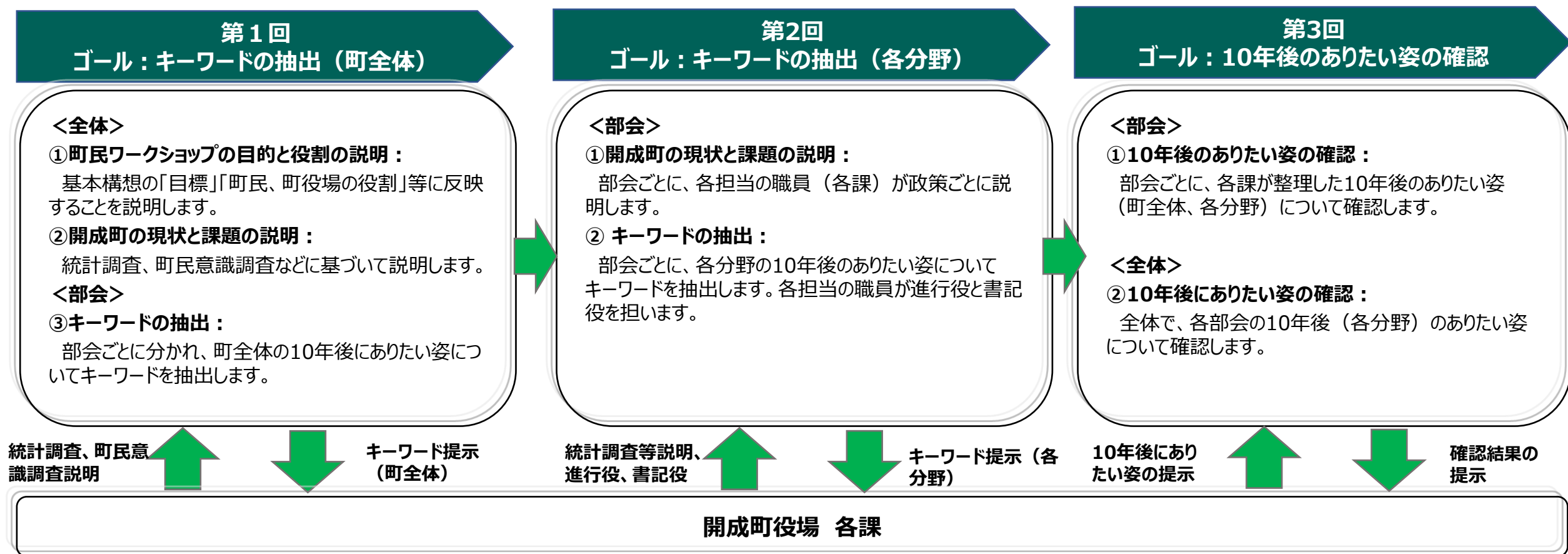
実施結果報告書

目次

1. ワークショップ開催計画	...	2
2. 第1回ワークショップの開催	...	3
3. 第2回ワークショップの開催	...	4
4. 第3回ワークショップの開催	...	5
5. 開成町の「10年後のありたい姿」(町全体)	...	6
6. 開成町の「10年後のありたい姿」(各分野)	...	11

1. ワークショップ開催計画

- (1) 目的：町民と各課のキャッチボールで、基本構想の素案（「ありたい姿」と「町民、町役場の役割」）を作成します。
- (2) 参加者の役割：次期基本構想の計画期間（概ね10年後）の主にある姿について、町民の立場から意見を述べます。
- (3) 進 行 方 法：町民と開成町役場各課の協働で進めます。第1回で町全体の10年後のありたい姿、第2回で各分野の10年後のありたい姿について議論を行い、第3回でその結果を確認します。



※ワークショップ会場は全て開成町役場

2. 第1回ワークショップの開催

- 日 時：令和5年12月18日（月）19:00～21:00
- 会 場：開成町役場 1 階
- 出席者：町民22人、町役場職員13人
- 目 的：「開成町の10年後のありたい姿（町全体）」のキーワード抽出
- 内 容：下記の通り

全体

部会

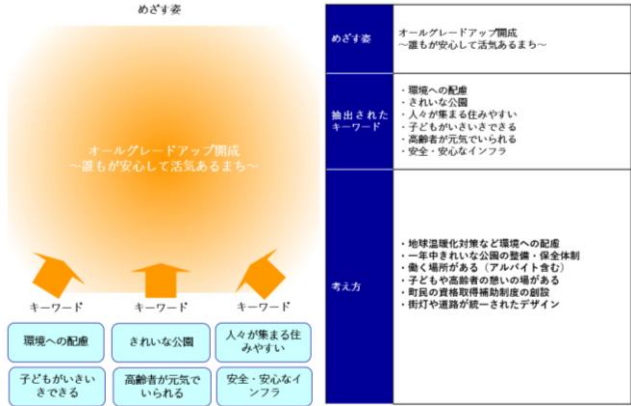
全体

- 本ワークショップの目的や参加者の役割について説明した後、統計資料等をもとに、開成町の現状と課題について説明を実施しました。
- 5つのグループに分かれ、「開成町の10年後のありたい姿」について、各グループにて議論と意見の取り纏めを行いました。
- 取り纏めた意見について、1グループ5分程度で発表を実施後、意見交換を行いました。

ワークショップ終了後、町役場にて抽出したキーワード（右記参照）を取り纏めた上で、「開成町の10年のありたい姿（町全体）」を整理しました。



第1回ワークショップ



抽出したキーワードの取り纏め結果（例）

3. 第2回ワークショップの開催

- 日 時：令和6年1月18日（木）19:00～21:00
- 会 場：開成町役場 2 階
- 出席者：町民22人、町役場職員15人
- 目 的：「開成町の10年後のありたい姿（各分野）」のキーワード抽出
- 内 容：下記の通り

部会

部会

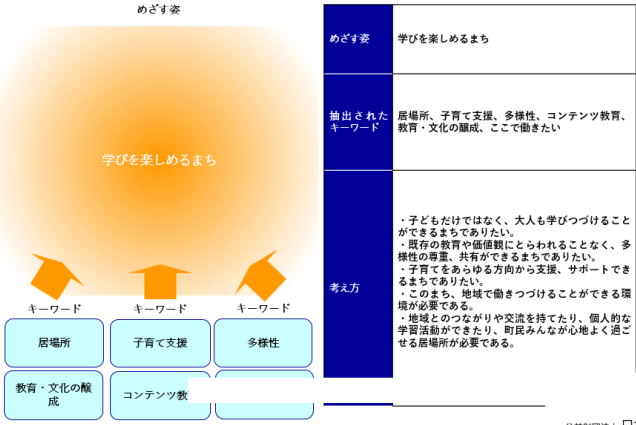
全体

- 6つの政策分野（①子育て・教育、②健康・医療・生きがいづくり、③安全・安心、④自然環境、⑤都市機能と景観、⑥産業・文化）ごとにグループに分かれ、各分野の現状と課題について、町役場職員より説明を行いました。
- 各分野別の「開成町の10年後のありたい姿」について、各グループにて議論と意見の取り纏めを行いました。
- 取り纏めた意見について、1グループ5分程度で発表を実施後、意見交換を行いました。

ワークショップ終了後、町役場にて抽出したキーワード（右記参照）を取り纏めた上で、「開成町の10年のありたい姿（各分野）」を整理しました。



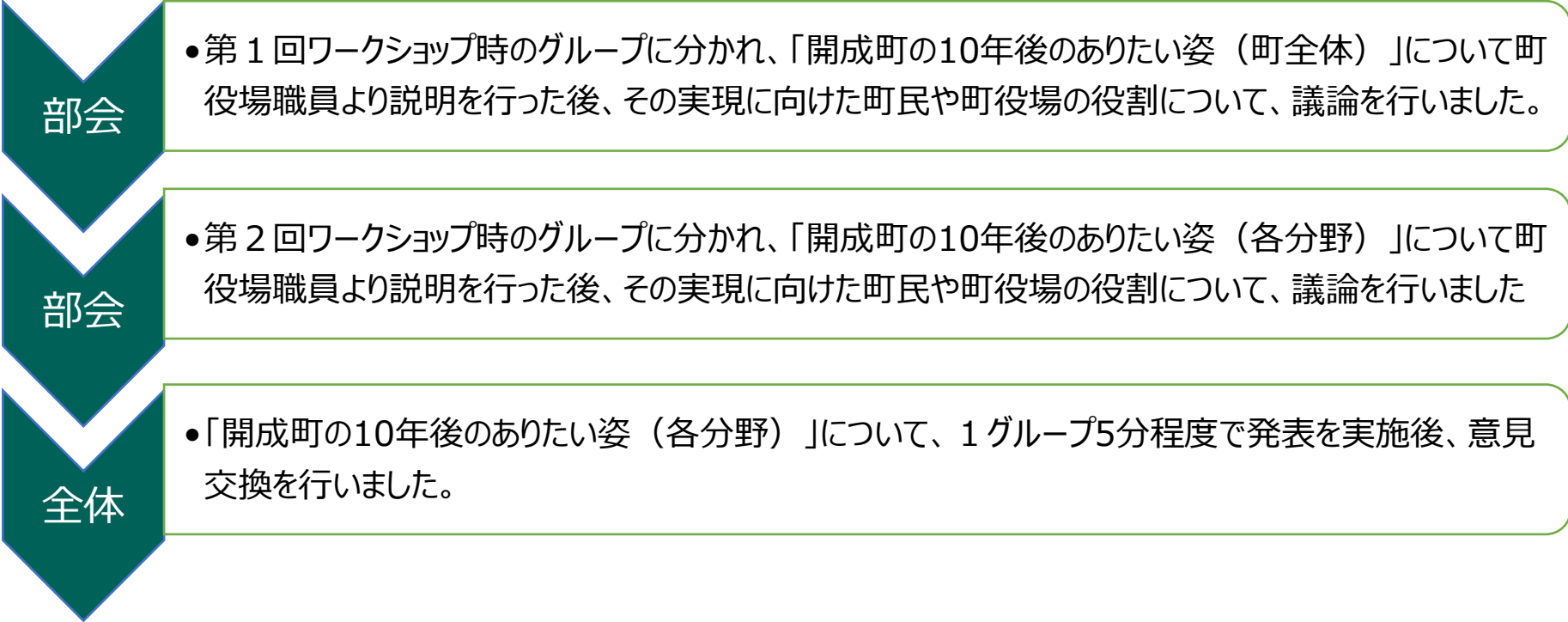
第2回ワークショップ



抽出したキーワードの取り纏め結果
（子育て・教育分野）

4. 第3回ワークショップの開催

- 日 時：令和6年2月15日（木）19:00～21:00
- 会 場：開成町役場 2 階
- 出席者：町民22人、町役場職員14人
- 目 的：「開成町の10年後のありたい姿」の確認
- 内 容：下記の通り



第1回～第3回ワークショップで議論した「開成町の10年後のありたい姿（町全体）」「開成町の10年後のありたい姿（各分野）」を参考とし、基本構想の素案を作成します。



第3回ワークショップ

分 野	めざすべき状態 (描かれた未来像)	考え方	役 割	
			町民	町役場
子育て・教育	【開成町】 すべての人が自分の成長を促すことができる場所がある状態	子どもだけでなく、大人も学びつづけることができる場所、施設があることが必要。人とつながり、交流を持てるような環境も必要。	・もくもく会（中高生の居場所、寺子屋） ・生涯学習のオープンコンサート ・生涯学習の活用	図書館、公民館・ホール等を活用し、町民が学びたい、交流できる場所をつくる。また、町民活動を実施できるように働き、施策をつくる。
	【子育て支援】 子育てに不安、心配なことがない状態	子育て支援をしっかりサポートすることと、このまちにこれからの住み続けたい人たちが住み続けたい環境を創出することが必要。	・おらが子育ての推進 ・生涯学習推進「おちちドクター」 ・生涯学習の活用 ・子育て支援のフィールドワーク、公開 ・町民の子育て支援	子育て支援の体制を整えることにより、経済的、物的支援のほか、交流の場等の環境を整備する。
	【多様性】 個性の個性にとらわれないこと、新しいものを生み出すことができる状態	人種、性別、障がいのある者を尊重し、みんなが共有できる場所の創出、多様性を創出することが必要である。	・Create for KAGAWAなどの立ち上げ ・ボランティアのコーディネート ・シビックエタハレーションの開催 ・町民参加型まちづくりの交流 ・子育ての推進	異文化交流の場を創出したり、町民参加型まちづくりの交流を開催する。

開成町の10年後のありたい姿（各分野）
（子育て・教育分野）

5. 開成町の「10年後のありたい姿」(町全体)

■ グループ1

めざす姿	めざすべき状態 (抽出されたキーワード)	考え方	役 割	
			町民	町役場
オールグレードアップ開成 ～誰もが安心して元気ある まち～	【環境・交通】町がきれいで、安全・安心な暮らしができる状態	・雑草が伸びて利用に支障をきたしている公園が散見されるため、十分な管理方法の検討。 ・地球温暖化対策として、2050年までに二酸化炭素排出実質ゼロに取り組む。 ・移動に困らない交通インフラの整備。	・GRCの活用、グレードアップ ・バリアフリー、平らな町でエココミュニティーモデルタウン宣言 ・メイン道路を作成（5～6本） ・草刈り事務⇒剪定枝をどんどん出す。 ・エコカーなど開成町が効率がよいことを発信する。 ・ボランティアによる清掃活動 ・移動インフラアンケート調査（バス停）	・公園の維持管理レベルを向上させ、全世代の憩いの場となるような魅力を創出する。 ・開成町地球温暖化対策実行計画に基づき、ゼロカーボンシティの創成に向けた施策を図る。 ・町民のニーズに応える交通システム（コミュニティバスの拡充やタクシー補助等）を構築する。
	【こども】こどもがいきいきと暮らせ、安心して過ごせる状態	・こどもの放課後等の居場所として、寺子屋など学べる場所や、公共施設など安心して集まれる憩いの場の確保と整備。 ・保護者が働きながら子育てしやすい環境（保育園・学童）の充実。	・瀬戸屋敷や町役場のスペースを利用して寺小屋塾など民間活力を発揮させる。 ・防犯パトロール活動 ・ファミサポ会員及び利用のPR ・自治会による子育て支援活動	・放課後子ども教室の充実を図るとともに、放課後に児童が安心して過ごせる新たな居場所づくりを支援する。 ・保育所や学童の保育サービスを適切に提供し、待機児童ゼロを継続させる。
	【賑わい】町民の働く場所があり、誰もが生きがいをもって暮らせる状態	・大人の働く場所はもちろん、学生にとってもアルバイト（職業体験）ができる場所や機会が多くあるとよい。働くことで町に活気が生まれる。 ・町民の資格取得の補助 ・大規模イベント（車いす世界サミット・ママチャリあじさい農道レース）の開催による賑わいの創出	・SNSで「開成町大好き」と発信する。 ・商業地の拡大 ・駅前に店舗の設立 ・資格取得後の公共等アルバイトの斡旋 ・製薬系の研究所の設立（水の利用）	・町民の働く場を確保することで、町に活気が生まれ、若い人材の流出を防ぐことができるため、企業誘致等を図る。 ・介護や子育て等の幅広い分野の担い手を確保するため、町民の資格取得の補助を図る。 ・各機関と連携し、町の特色を生かした魅力あるイベントを開催する。

5. 開成町の「10年後のありたい姿」(町全体)

■ グループ2

めざす姿	めざすべき状態 (抽出されたキーワード)	考え方	役 割	
			町民	町役場
わくわく楽しいまち かいせい	【住環境】 不便が解消され、住みやすい状態	・町内巡回バスを走行しているが本数少なく使いにくいと意見があった。時間も場所も自由に行けるようにしたい。	・シャトルバスのライドシェア ・ルートを明確にしたオンデマンドバス ・サービスを知る、利用する、意見する。 ・SNSで開成町を発信。 ・水田資源体験、収穫型観光推進	年間通して観光客が訪れたいと思える観光資源の開発により、町内への企業進出（公共交通含む）を促す。町内企業の経営支援を行い地域資源の魅力を高め、経済に好循環を図る。地域の互助精神の機運を高める。
	【観光】 訪れたいと思える状態	・食事処が少ない。買い物帰りやウォーキングの途中で少し休憩できるカフェを町内にいくつか設け、歩くのを楽しみたい。	・飲食店のMAP作成 ・開成町特有の名産品開発 ・全国コミュニティで開成町を発信 ・富士フィルムから開成町へのモノ、コトを提案、提供する。	
	【働く】 働きたい企業がある、企業しやすい状態	町の名産品がないので、それを目当てに来町するようにしたい。また町の魅力発信を強化したい。	・空き家をホテル化し、町全体を活性化 ・勤務先の企業を町に紹介 ・吉田島高校との食育連携授業プログラム化 ・農泊推進 ・起業家の法人化支援 ・ふれあい農園以上のJA不要化	
		空家をリノベーションして、ホテル化・ワーケーション化したい。		起業支援のための補助制度や国・県等の補助の情報発信。企業誘致、ワーケーションのための都内企業へのPR。
		農地保全のために就農支援や若者が働きやすい環境を整備したい。		
	【学び】 ここでしか学べないことや新しいことにチャレンジできる状態	遊びの幅を広げたり（ボルダリング・スケボーパーク）、体験型の学びなど自由に学べる環境したい。	・私設図書館 ・Code for KAISEIの立ち上げ ・中高生が集まる場所を提供 ・スケボーパーク ・産学官連携 ・災害時の行動を明確にする。 ・シビックテックハッカソンの開催	企業版ふるさと納税やクラウドファンディング等を活用した施設整備。官民連携した生きた学習機会の創出
	【安全・安心】 リスクを最小限に抑えられている状態	自然災害に対する備え（ハード・ソフト）や安心して歩けるよう歩道の拡幅等を整備し、安心して生活できる環境を整備したい。	・交通見守りボランティア ・自治会防災訓練コンテンツをYoutubeで公開 ・中央通り途中にパーク	公共施設の老朽化対策や道路等の改修、効果的な避難訓練等の実施

5. 開成町の「10年後のありたい姿」(町全体)

■ グループ3

めざす姿	めざすべき状態 (抽出されたキーワード)	考え方	役 割	
			町民	町役場
安心して楽しく充実した生活を送れる町	【安心】災害対策に係る施設・制度が充足している状態	・震災や富士山の噴火などの際の懸念を払拭したい。	・公助に何があるか情報を入手しておく。 ・自分で生き残れるように備える。 ・避難計画の矛盾を役場にインプットする。 ・避難先を自分で探す。 ・共助は自治会活動を定例化する。 ・安否確認の方法を考える。 ・富士山噴火灰の捨て場を決める。 ・農耕業を行う。 ・食料等、備えをしっかりとる。	・発災時に備えて自助・共助・公助の準備をしておく。 ・被災者の受入施設等を企業等との連携で確保し、住民に周知する。
	【楽しく】調和のとれた魅力的な施設や自然を感じられる状態	・商店や公園で賑わいが生まれている。 ・街並みと自然との調和を維持したい。	・店舗ができたら通う。 ・飲食店のオーナーに試食会をお願いする。 ・商店街を作る。 ・ゴミを捨てない。 ・SNSで発信をする。 ・SNSの勉強会を行う。	・町内の商業・飲食店の活性化を促す施策。 ・子どもが行きたくなるような魅力的な公園・遊具の整備。
	【充実】人が集まる図書館や働く場所、勉強・運動の機会や場所、交通インフラ等が充実した状態	・生涯学習、子どもたちへの教育、スポーツの機会を増やすことなどとおして生活の質を高める。 ・交通インフラの充実も望むが、無駄な投資をしない事も重要。	・町民が講師をする勉強会を実施する。 ・インフラ整備の要望をする。 ・スポーツ大会の参加 ・IT教育のフォローをする。 ・本を寄贈する。	・図書室の充実を推進する。 ・学校教育のギガスクールの推進。 ・産業やスポーツの振興 ・必要な交通インフラを整備する

5. 開成町の「10年後のありたい姿」(町全体)

■ グループ4

めざす姿	めざすべき状態 (抽出されたキーワード)	考え方	役 割	
			町民	町役場
田舎モダンの具現化	安全安心な住みやすい状態	・子育てがしやすい街づくり（遊具、図書館など） ・町内の移動が容易、かかりつけ病院がある等、高齢者にやさしい街づくり	・中学制服自由化 ・学校菜園の運営協力 ・遊具、本等の提供 ・声をかける、コミュニケーション ・最先端の交通等を導入 ・不要な自転車の提供orシェア ・町民が先生となって協力（語学、手芸、プログラミングなど）	公民連携による施設（図書館、病院等）の整備の検討 公民連携による町外から及び町内の移動手段の拡充
	豊かな農村（持続可能な農業が営める状態）	・豊かな自然にある農地の利活用をはかる（特産品、オーナー制度、体験型施設等）	・地産地消 ・援農参加 ・農地保全活動参加（農業用水路の掃除等） ・ビニールハウス屋内作業 ・水、氷販売 ・地域クーポン、出店協力	特産品の企画、オーナー制度、体験型施設の制度の検討
	若い世代の人が集まる状態	・イベント等を開催し、わくわくする街づくり ・町外から、及び町内での移動手段の利便性の向上	・予算を町民（団体）に与え、企画運営させ、町はフォローする。 ・ライドシェア運転手として協力 ・イベントアイデアの提案 ・プロボノとして協力 ・休憩スポット提供 ・未来人に向けたファンドを立ち上げる。 ・衣食住をシェアする。 ・NPO団体を立ち上げる。 ・文化、文芸を広める場の提供 ・SNS発信、アンバサダー	公民連携のイベントの企画

5. 開成町の「10年後のありたい姿」(町全体)

■ グループ5

めざす姿	めざすべき状態 (抽出されたキーワード)	考え方	役 割	
			町民	町役場
全世代が安心して暮らせる活気のあるまち	町民の安心が確保された状態 【安心（防災・福祉・暮らし）】	防災・福祉・暮らしなど様々な面での安心が確保されていることが町民の生活の基盤となる。	・福祉マークの理解 ・自治会の加入、活動の参画 ・組内のコミュニケーション強化 ・避難場所の設置 ・災害時、集合場所の明確化 ・50～100世帯ごとの町内会設立	●災害対策の強化（自助の啓発・互助の支援・公助の整備、災害に強い都市基盤の整備） ●福祉の充実（支援＋理解促進） ●おいしい水道水の供給
	町民の生活利便性が確保された状態 【便利】	生活に必要なもの（働く場所、買い物をする場所、移動手段）が整っていることが重要である。	・徒歩、自転車での移動 ・商店街を駅前に作る。 ・駅前に人が集まるワークスペース ・情報収集、提供 ・レンタサイクルの活用	●商工業の立地促進（駅前整備・企業誘致） ●公共交通の維持確保
	良好な自然環境や景観が保全された状態 【自然・景観】	開成町の水田、古民家による景観は、保全していく必要がある。	・野良猫を見て見ぬふりをしない。 ・水路のゴミ清掃 ・付加価値の高い農産品を作る。 ・休耕田を積極的に開放 ・ちょこっと農業ボランティア ・家に太陽光発電つける。	●農業振興（担い手の確保、稼げる農業への転換支援） ●景観保全（土地利用制度による誘導）
	良好な生活環境が確保された状態 【きれい】	生活空間が「きれい」であることは、生活する場所を選択するうえで、大きな要素である。	・自宅をきれいにする。 ・ごみの分別リサイクル ・ごみ拾い、草刈り ・リサイクルボックスの常設 ・ポイ捨てしない	●環境美化意識の向上（啓蒙） ●適切なごみ処理（資源化、再利用を含む。）
	町に活気があふれた状態 【活気】	「多様性の豊かさ」、「チャレンジ精神」などによって、町に活気があることが「町外からのあこがれ」につながる。	・自治会ではなく連合会で活動 ・ボランティア参加 ・地元のお店の利用 ・SNSでの発信 ・テレワークを中心として移住者を転入させる。	●多様な人材がまちづくりに参画しやすい環境（制度）づくり ●前例踏襲ではない、新たな発想でのまちづくりの展開
	こどもが多く、こどもたちが元気なまちの象徴となっている状態 【こども】	こどもたちの元気な声（あいさつ）が響くまちづくりは、全世代の活力につながる。	・公園がうるさくても文句を言わない。 ・高齢者のボランティア活用 ・教育現場で町の方と協力 ・子ども見守り隊	●子育て世代をターゲットにした定住促進策の実施 ●妊娠・出産・育児の切れ目のないサポート体制の構築 ●世代間交流の活性化

6. 開成町の「10年後のありたい姿」(各分野)

■ 子育て・教育分野

分野	めざす姿	めざすべき状態 (抽出されたキーワード)	考え方	役 割	
				町民	町役場
子育て・教育	学びを楽しめるまち	【居場所】 すべての人が自分を成長させることができる場所がある状態	子どもだけでなく、大人も学びつづけることができる場所、環境があることが必要。人とのつながり、交流を持てるような環境も必要。	・もくもく会（中高生の居場所、寺子屋） ・瀬戸屋敷のオープンコンサート ・各自治会館の活用	図書館、文化ホール等を整備し、町民が学習したり、表現できる場所をつくる。また、町民活動を発表できるような機会、場面をつくる。
		【子育て支援】 子育てに不安、心配なことがない状態	子育て世帯をしっかりとサポートすることで、このまちにこれからも住み続けてもらえるようにするにすることが必要	・おらが自慢の発表会 ・自治会間連携（おもちゃドクター、防災訓練の動画） ・子ども用品のリサイクル会 ・子育て支援のフィードバック、公開 ・町独自の子育て支援	子育て世帯の負担を軽減できるような経済的、物的支援のほか、交流の場等の環境を整備する。
		【多様性】 既存の価値にとらわれることなく、新しいものを受け入れることができる状態	人種、性別、障がいの有無等を超えてみんなが共有できる価値の創造、多様性を創出することが魅力あるまちにつながる。	・Code for KAISEIなどの立ち上げ ・ボランティアのコーディネート ・シビックテックハッカソンの開催（町外参加者と町民との交流） ・ブギウギの共感ができる場	異文化交流の場を創設したり、相互理解を深めるようなイベントを開催する。

6. 開成町の「10年後のありたい姿」(各分野)

健康・医療・生きがいづくり分野

分野	めざす姿	めざすべき状態 (抽出されたキーワード)	考え方	役 割	
				町民	町役場
健康・医療・生きがいづくり	目指せ健康で長寿のまち かいせい	【健康増進】 ・平均寿命の延伸を図るとともに健康寿命との差が限りなくゼロに近づく状態	・いつまでも元気にとの声が多かったが、ただ寿命の延伸を図るだけでなく、介護保険等をなるべく利用しないため健康寿命の延伸も図る	・毎日ウォーキングする。 ・認知機能向上大会を実施。 ・体操教室の実施。(定例化) ・フレイルの参加	・体操教室、認知機能の向上のための事業の実施。最低週1回は社会参加をする機会の創出。
		【健康管理】 ・自分の健康状態を把握し病気の早期発見・早期治療ができる状態	・定期的に健（検）診を受診し、自分で健康状態を把握するとともに、病気の早期発見・早期治療を普及啓発し、検診受診率を100%に近付ける必要がある	・新聞をよく読む。 ・毎年検診の受診。 ・かかりつけ医の自治会組単位で管理。	・健（検）診のあり方の検討。気軽・手軽に利用できるための環境整備。自分の健康管理をしなければと思わせる動機付けの実施。かかりつけ医をもたせる。
		【活性化】 ・街全体の活性が高まる状態	・誰でも参加しやすく、多くの町民が交流できるイベントを開催し街の活性化を図る。 ・町の地場産の野菜等を使い、特産品・健康食品を開発する。みんなで意見を出し合いなるべく多くの方に携わって開発し愛着を持たせる。	・自治会で地場産を使ったイベント（試食、販売、即売会） ・あじさいまつりの参加	・イベントの開催、町主体では回数に限度があるため、様々な主体との協働により実施（メリットを持たせる） ・様々な主体とのマッチング ・町のブランディング認定制度のレベルアップ。狭き門にするが、販路の確保などメリットを持たせる。
		【心の健康】 ・悩みを話せる、分かち合える、一人じゃないと思える状態	・悩みをもったかた、喪失体験をされた方、介護で疲弊した家族などが、悩みを話せる・共有できる場が必要。	・体験談の発表会を行う。 ・セミナーに参加。 ・情報収集（図書室へ行く等）	・グリーフケアステーションや介護家族教室の開催。ボランティアなどの人材育成。
		【生きがい】 ・毎日の生活に楽しみが生まれ、明日がくるのが楽しい状態	・ゴルフ（パーク・ゲート等）、囲碁・将棋などの趣味や飲み屋など家から出て楽しむ通いの場等が必要	・世界情勢に注意する。 ・健康で無理なく、長く働く。 ・ボランティア活動の参加、参画。 ・株に興味を持つ。 ・趣味を持つ。 ・マンダラートを作る。	・通いの場の情報集約・情報発信、新たな通いの場の創出。魅力的な飲食店等の誘致。

6. 開成町の「10年後のありたい姿」（各分野）

■ 安全・安心分野

分野	めざす姿	めざすべき状態 (抽出されたキーワード)	考え方	役 割	
				町民	町役場
安全・安心	ばくも！わたしも！ たすけあって 安全・安心なまち	災害に対する備え	・避難先の確保と強固な避難先の確保、 トイレやマスク、食料など備蓄品がすぐ届く。	・各家庭で備えをしっかりとする。 ・公共備蓄品分散保管 ・非常通信訓練 ・情報発信（SNS）	災害時応援協定の充実、備蓄品の定期的な購入や自助として自分での確保の重要性の周知、啓発
		避難先の明示	・誰でも避難所が分かるように町内に表示	・ハザードマップの説明を各地域でする。 ・安否確認の方法をもっと考える。 ・近所とのコミュニケーション（声かけ）	防災ガイド、広報等での周知、防災講座や講演会の充実
		自助・共助	・地域での説明会の充実、高齢者の見守りや自主防災会等への女性の参画、安否確認の方法の充実、近所住民とのコミュニケーション重要性	・共助の充実を図るため、イベントを増やす。 ・自治会の組ごと（隣近所）に助ける人を決めておく。 ・災害発生時の組内の役割明確にする。 ・2市5町のつながり強化 ・火の用心呼びかけ隊	自主防災会組織の防災力の向上のための講座の開催、防災訓練における民生委員との連携訓練
		子どもの防災・防犯教育	・小学校の低学年からの防災教育の実施、狭い道路の改修、SNSの活用	・子ども110番の家を増やす（プレートももっと大きく） ・子ども見守り隊 ・挨拶運動	小学生低学年からの交通防犯の教育の推進及び学校との調整、防災講座などへの職員の派遣、日々の災害を想定した危険箇所抽出、SNSの広報拡充
		豊かな生活	・北部地域で買い物難民ゼロ、高齢ドライバー対応、高齢者タクシー、シャトルバス運行、ドローンの活用。	・ボランティア参加（ドローン、運転） ・商店、飲食店が減らないように利用していく。	店舗誘致、瀬戸屋敷やハッコで購入できる品目販売車両の運用
		災害に強い環境・施設	・停電しても明るい町、水害の学びの資料館、病院の充実など開成町で予想される災害などに関わる情報、知識を得る機会	・各家庭でソーラー電灯を備える。 ・講演、講座に参加。	開成町に被害を及ぼす災害などの講演会、各種講座の開催、災害時に強い街づくりの推進

6. 開成町の「10年後のありたい姿」(各分野)

■ 自然環境分野

分野	めざす姿	めざすべき状態 (抽出されたキーワード)	考え方	役 割	
				町民	町役場
自然環境	日本で一番自然豊かな町	今ある自然を守りながら、動植物と共存できる状態	・河川や自然など今ある自然豊かな景観を維持し、未来につなげていく。 ・義務教育等を通して、河川や自然環境の保全・共存について学ぶ ・都心から遠くない立地にありながら望める富士山・丹沢、とてもきれいな水をピーアールする。	・ゴミを積極的に拾う（イベント化する。） ・植物を育てる（アジサイの里親等） ・家の周りの動物を大切にする。 ・出かけるときも開成の水を持っていく。 ・地元の農家を応援する。	・優れた景観を維持するための都市計画づくり ・環境美化活動の促進 ・学校教育の自然学習を強化 ・町にある自然をピーアール
		CO ₂ 削減が促進され、また、持続可能な状態	・3 Rを促進していく。 ・自転車や電気自動車の活用等を通じてCO₂排出が抑制される。 ・太陽光発電等のクリーン電力を促進する。 ・持続可能な社会に向け、教育や制度を充実していく。	・ゴミの排気量や行く末を知る。 ・リサイクル ・自転車を使う。 ・エコ家電、エコな電力会社を選ぶ。	・3 Rにかかる環境の整備 ・必要なインフラの整備 ・太陽光パネル等、ゼロエネルギーに対する補助の充実・周知

6. 開成町の「10年後のありたい姿」(各分野)

■ 都市機能と景観分野

分野	めざす姿	めざすべき状態 (抽出されたキーワード)	考え方	役 割	
				町民	町役場
都市機能と景観	のび太が楽しめる町	いつでも、いざという時も活用できる状態	・平日でも休日でも、平常時でも災害時でも活用できる、公園等の多機能施設の整備 ・災害にも強い、活用し続けられる施設整備及び管理	・災害DIYベンチ改造 ・グリーンリサイクルセンターのブランド化	・公園の多機能化 ・災害時の用水の確保 ・災害に備えたインフラの更新整備 ・日常管理も考慮したバランスのとれた整備と管理体制の構築
		だれでも楽しめる新しいことが創出される状態	・町民や町外者に関わらず、地域に関わらず町全体として楽しめる ・今ある資産で今ない新しいものを創造する	・あじさいを庭に植えて祭を盛り上げる。 ・弥一芋レシピコンテスト（開成ブルー） ・SNSで景色を共有。 ・園芸まつり ・ティラノサウルスレース	・駅前の賑わい創出と景観の保全 ・インクルーシブな環境整備 ・役場や瀬戸屋敷の町有施設をはじめ、空き家等の民間施設を活用した地域の活性化 ・自然を生かした環境整備
		どこでも、どこにいてもつながりやすい状態	・子供から年寄りまで移動に困らない新しい交通環境の整備 ・地域と地域をつなぐ、コンパクトなまちづくり	・平坦な土地を活かしたエコ交通。 ・自転車で移動。 ・自動運転バス ・安全見守り隊	・町内周遊バスや自動運転等の新交通システムの構築 ・自動車に頼らない平坦な町を活かした自転車等の活用 ・各移動者にとって、快適で便利な交通環境の整備

6. 開成町の「10年後のありたい姿」(各分野)

産業・文化分野

分野	めざす姿	めざすべき状態 (抽出されたキーワード)	考え方	役 割	
				町民	町役場
産業と文化	産業×文化 【〇〇×X】 の推進	産業を担う人材が確保された状態 【ヒト】	●産業を維持・発展していくためには、その産業を担う「ヒト」が必要不可欠である。	・有償、無償を含めた労力の人的スキルの提供（口コミ活動、語学ボランティア、町民の職業・スキル活用等） ・兼業農家になる。（家庭菜園以上、農家未満）	●新規参入・事業承継・人材活用の制度・プラットフォームづくり ●ちょこっと体験の制度化 ●イメージづくり（PR等）
		高付加価値型の産業への転換が進んだ状態 【稼ぐ】	●産業を維持・発展していくためには、その産業を稼げる産業に転換していく必要がある。	・地産地消の促進（地元農産品の消費）	●農地の集約化（仲介） ●農業の6次産業化の支援（補助等） ●特産品の開発・地場産品のブランディングの支援（補助・PR等）
		環境と調和した持続可能な産業活動が行われている状態 【産業×環境】	●現代においては、産業活動の活性化と並行して、産業活動と環境保全の調和が必要不可欠である。	・カーボンファームिंगの実践 ・環境保全型農業の実践 ・農地保全活動参加	●環境保全型農業の推進（補助等） ●産業界に先駆けた環境配慮
		開成町の特徴（農業・農村文化・食材）や既存資源（イベント・施設）を活かして、誘客できている状態 【農業・文化・食材×観光】 【既存資源×新たな視点】	●交流人口を増やすためには、開成町の特徴である農業・農村文化・食材を活用した「体験型観光」を充実させる必要がある。 ●交流人口を増やすためには、既存のイベントや施設に、新たな視点を加えた事業展開が必要である。	・大手イベント会社の紹介 ・体験イベントの提供 ・いろいろな分野のコンテストの開催 ・不要な自転車の提供	●体験型観光の促進（パッケージ化、旅行代理店へのPR等） ●町主催イベントのバージョンアップ ●既存施設（瀬戸屋敷・各公園・サイクリングコース等）の利活用方法の拡充
		産業（農業・商工業・観光）の活性化に必要な基盤が整っている。 【手段】	●産業間の連携、担い手のマッチング、情報発信などを強化していく必要がある。	・口コミ活動 ・SNS等の発信 ・マッチングアプリの提供	●近隣市町との連携強化 ●SNSを活用した情報発信 ●産業間の連携・担い手のマッチングのためのプラットフォームづくり